

ゴール指向要求分析方法

Group I3

08mi105 木下康介

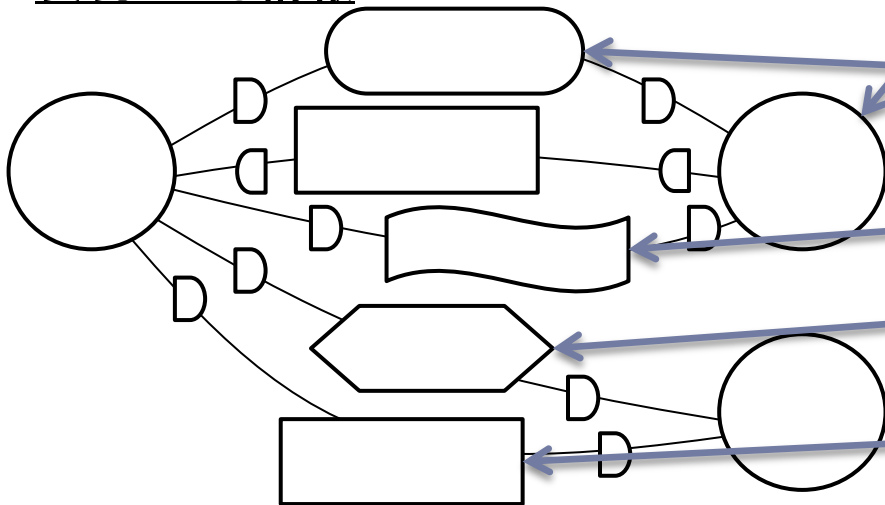
08mi274 山下和希

目次

- i* フレームワークの評価
- SSMの評価
- 研究の着眼点
- ザックマンフレームワーク
- 今後の方針
- 参考文献

i* フレームワークの評価

表現できる情報



アクタ
人, システムなど

ゴール
定量的ゴール

ソフトゴール
定性的ゴール

タスク
ゴールを達成する
ための手段

リソース
利用できる情報
などの資源

依存関係
要素に対してのアクタ
間の依存関係

抽出方法

シナリオを作成し, 各要素を抽出.

問題点

作成プロセスが未定義

アクタ間の関係が曖昧

ゴール, ソフトゴールの区別が困難

粒度の問題

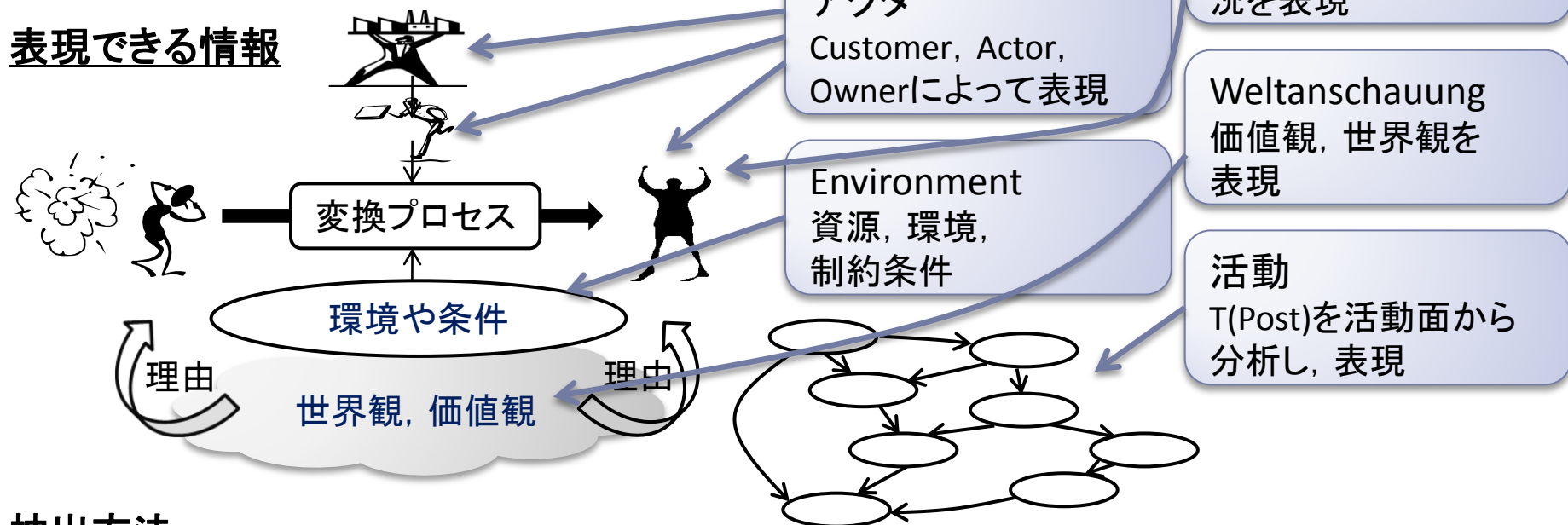
ゴールの妥当性の確認

要素抽出が定量的



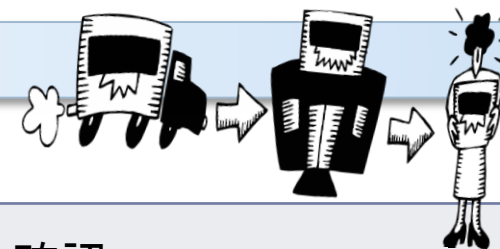
SSMの評価

表現できる情報



抽出方法

リッチピクチャを用いて議論を行い抽出



問題点

定量的な分析が不可能

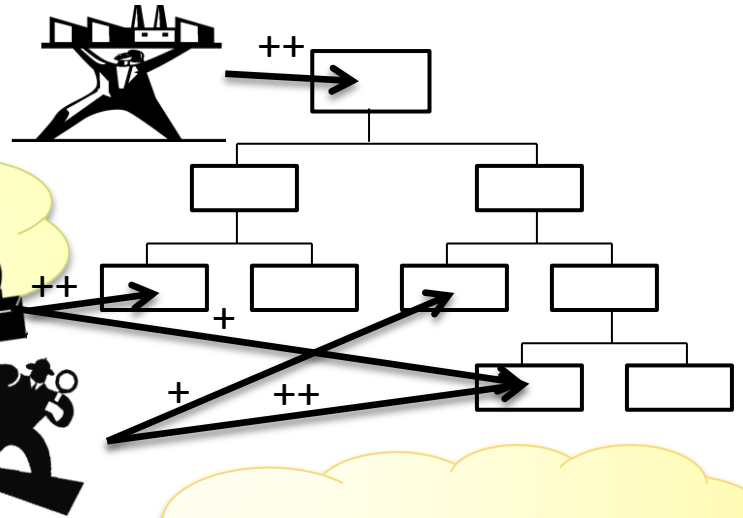
T(Post)の妥当性の確認

粒度の問題

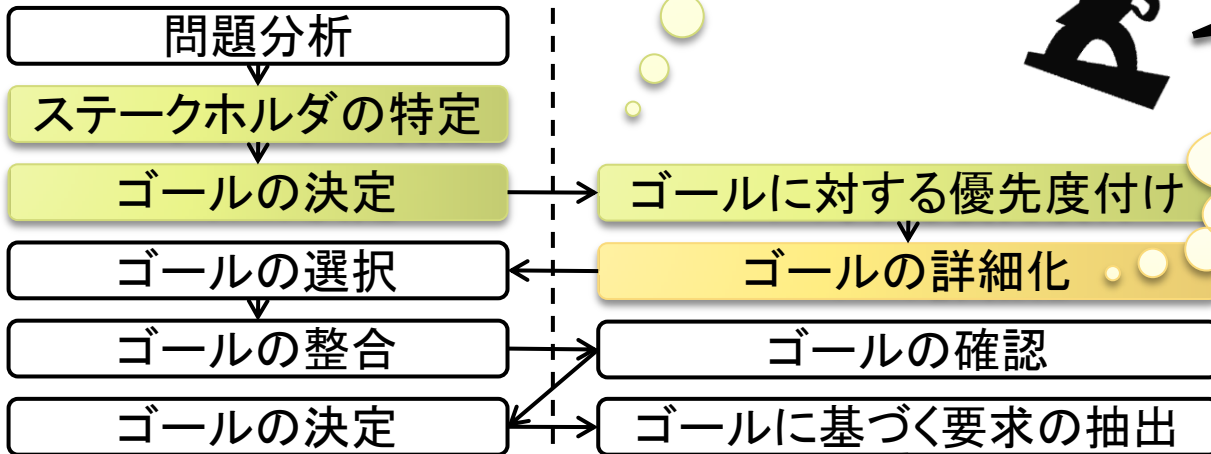
リッチピクチャによるので、
アクタ間の関係が曖昧。

研究の着眼点[1/2]

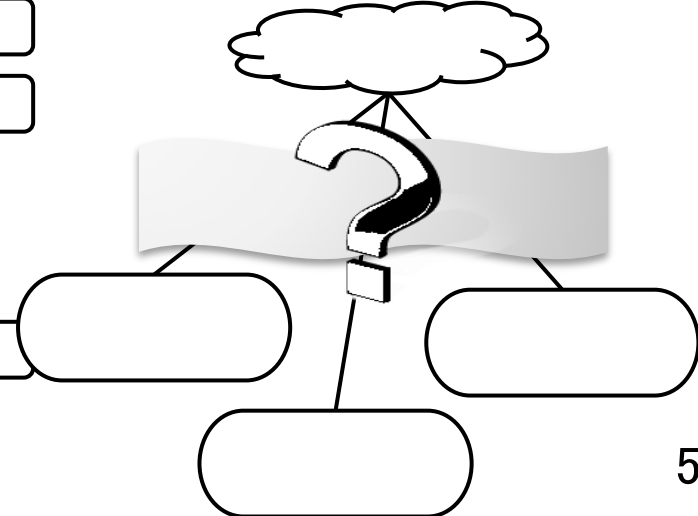
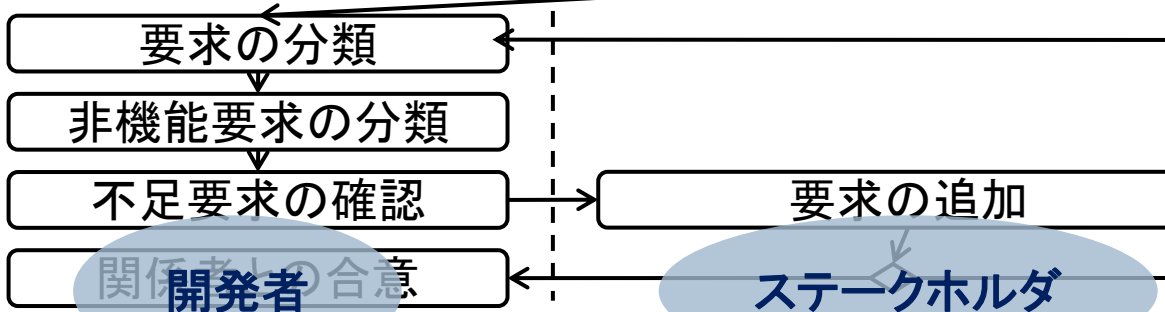
アクタ間の関係に着目し
ゴールを決定する。



要求獲得プロセス



ソフトゴールからハードゴール
へ落とし込む際の基準



研究の着眼点[2/2]

アクタ間の関係を明確にする

アクタの多様化によって、アクタ間の関係が理解しづらい。

今までのアクタとゴールの関係性



目指す関係性

アクタ間の関係を役割、活動など多方面から分析し、関係づけることで、アクタの重要度を明確化

The diagram shows a network of actors (silhouettes) with red arrows pointing to goals (clouds). A grey callout box explains that by analyzing relationships from multiple perspectives like roles and activities, actor importance can be clarified.

アクタの重要度の明確化

ゴールの優先順位の決定

アクタとゴールの関係性の
明確化

ザックマンフレームワーク[1/2]

概要

エンタープライズ・アーキテクチャ(EA)を考えるためのフレームワークで、組織という複雑な構造物を体系的に記述や観測ができるように、各要素の範囲や関係を分類、整理したもの。関係者の観点を縦軸、5W1Hの観点を横軸に取った6行6列のマトリクスで表現される。

エンタープライズ・アーキテクチャとは

大企業や政府機関などといった巨大な組織(enterprise)の業務手順、情報システムの標準化、組織の最適化を進め、効率よい組織の運営を図るための方法論。

5W1Hの観点

What	How	Where	Who	When	Why
Thing , Data	Function	Network	People	Time	Motivation
もの, データ	プロセス, 機能, 変換	ネットワーク, 場所	組織, 人	イベント, サイクル, タイミング	ビジョン, ミッション, 目標/目的, 戦略/戦術

ザックマンフレームワーク[2/2]

ザックマンフレームワークのマトリクス

	What	How	Where	Who	When	Why
Scope ←	Planner: 取り扱う対象範囲や, 構成要素を明らかにする.					
Business Model ←	Owner: 最終製品の利用者の視点. 何ができるのか, どのように行われるのかが明らかにされる.					
System Model ←	Designer: 利用者のニーズと技術的な制約の折り合いをつけ, 製品の論理レベルの設計を行う.					
Technology Model ←	Builder: 実際に製品を作る際の物理的な制約まで織り込んだ, 設計を行う.					
Detailed Representation ←	Subcontractor: 設計図を実際の製品に落とし込む細部を決定する.					
Functioning Enterprise ←	最終的に使われる製品を表す.					

今後の方針

- 題目「ゴール指向要求分析方法の提案」
 - アクタ間の関係性に着目し, ゴールを決定する.
 - ソフトゴールとハードゴールの区別の基準を設ける.
- 問題点
 - 各アクタの持つゴールが違う.
 - アクタ間の関係性が曖昧.
- 今後の課題
 - アクタ間の関係性を分析するための手法, またその表現方法を模索する.
- 課題に対するアプローチ
 - ① ザックマンフレームワークを用いて, アクタに情報を付加し, 関係性を表現できるかを実行してみる.
 - ② UMLを用いて, アクタ間の関係性を表現できるかを検討する.

参考文献

- ソフトウェア要求工学 講義資料
- ソフトシステムズ方法論
 - 著:ピーター・チェックランド, ジム・スクール
- <http://www.atmarkit.co.jp/farc/rensai-index/>
- Social Modeling for Requirements Engineering
 - 著:エリック・ユー
- 企業情報システムアーキテクチャ
 - 著:南波幸雄
- <http://e-words.jp/w/EA.html>
- http://www.jsys-products.com/iwaken/bpmn/pub/Modeling_Forum_2005.pdf